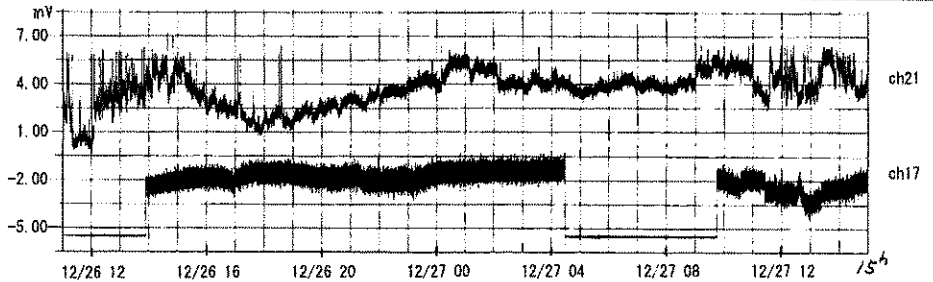


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 第12ステージの初現・極大認識を間違っていた見解→12/27ではなく1/10±の可能性

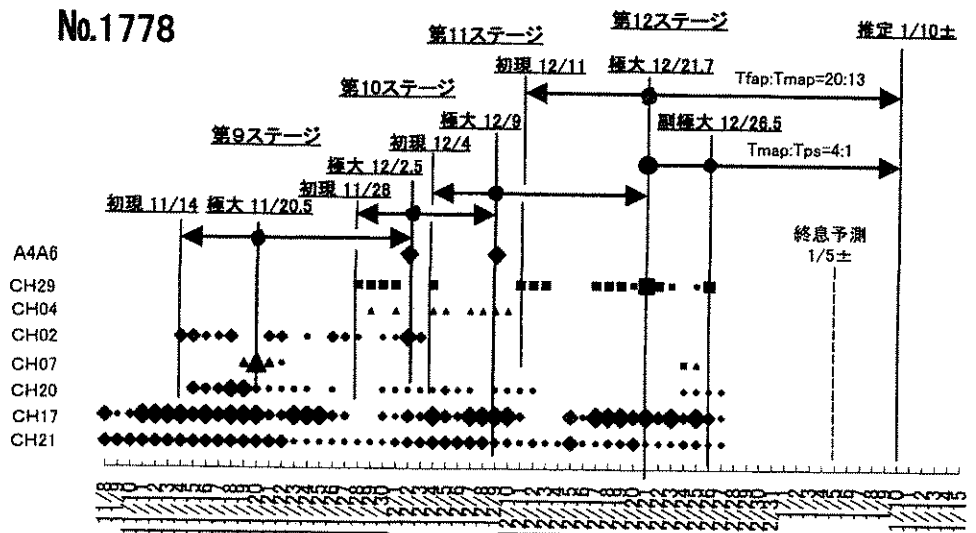
※右波形: 昨日12月26日~本日27日にかけてのCH21 (上基線)とCH17 (下基線) 本日27日15時迄のデータ。
※CH21=微弱な特異状態継続中。
※CH17=昨日14時に静穏化した後、本日4:30~10時前まで糸状特異出現。現在は静穏持続。



No.1778長期継続特殊前兆の前情報では、第12ステージの極大を12月16日とし、12月24日と25日に出現した短時間前兆を直前特異の可能性としました。また、第13ステージとも思える12月21日のCH29-BTを極大とし、12月26日に再出現したCH29-BTを直前特異の可能性と考え、両方から、12月27日が示される可能性を考察致しました。(前情報参照)

しかし、本日12月27日、右上波形のとおり、昨日14時に静穏化したCH17の糸状特異が、本日未明~午前にかけて再び糸状特異が出現した他、CH21は弱い特異状態で基線不安定。CH20の弱い特異も継続しています。

No.1778



前情報までの認識理解が仮に正しいのであれば、本日27日を示す状況の中、前兆が完全静穏化せずに出現していることは、あり得ません。従って、前情報までの認識理解が確実に間違っていたことが明らかです。つまり近日中の発生はあり得ないこととなります。

そこで、第09ステージ以降の前兆出現形態の関係を見直しました。第09ステージと第10ステージの認識は正しいと思われるが、第11ステージの初現を12月07日としていましたが、12月04日が初現の可能性。この認識では12月19.7日が計算できます。誤差内である12月21日にCH29BT極大が出現。12月21日が第12ステージの極大である可能性が示唆されます。第12ステージの初

現はCH29BTが継続出現した12月11日の可能性があります。

第12ステージの極大CH29BT(12/21.7)に対し、12月26.5に再出現したCH29BTは、地殻地震特有の副極大の可能性と考察してみました。(PHP新書地震予報 305頁・地震予報に挑む 191頁参照 12/21.7のCH29BTは長時間で、12/26.5のCH29BTは短時間であることから、Tmap:Tpsは平均3.7:1よりも4:1±の可能性有。これらを計算しますと、

◆初現12/11.0 - 極大12/21.7 - (Tfap:Tmap=20:13) ⇔ 1/10±

◆主極大12/21.7 - 副極大12/26.5 - (Tmap:Tps=4:1) ⇔ 1/9.9±

と、どちらからも2016年01月10日±が計算されます。12月27日が示される認識では27日に前兆継続はあり得ません。

本日前兆継続が認められるため、誤差で28日である可能性も考えられません。確実に認識が間違っていました。本当に申し訳ありません。深くお詫び申し上げます。お許し下さい。01月05日頃に前兆終息が確認されれば現認識は正しいこととなります。今後を観測し続報致します。

◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域 斜線領域=可能性が考え易い推定領域(斜線域周辺も含まれる可能性有) (※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解))

◆推定規模: M7.8 ± 0.5

◆推定時期: 2016年 1月10日(or 11日) ※01月05日±に前兆終息が確認されることが条件 (その他の可能性がないか、観測データを鑑み考察継続)

◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震(陸域) ◇推定発生時刻: 午前09時±1 (又は午後06時±3)

